

令和元年度第2回 札幌市地震被害想定検討委員会（議事要旨）

日時：令和元年12月19日（木）10時～

場所：TKP 札幌ビジネスセンター 5B

1 出席者（敬称略）

【委員】（○は委員長）

室蘭工業大学 大学院工学研究科	准教授	有村 幹治
北海道大学 大学院工学研究院	教授	石川 達也
北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部	地域地質部長	大津 直
北海道大学 大学院工学研究院	特任教授	今 日出人
北海道大学 大学院理学研究院	教授	谷岡 勇市郎○

以上、5名出席、1名欠席

【事務局】

札幌市

危機管理対策室長	荻田 葉一
危機管理対策部長	中出 昭彦
計画・原子力災害対策担当課長	松坂 彰
防災計画担当係長	鈴木 博道
防災計画担当	佐孝 司

【事務局補助】

(株)ダイヤコンサルタント

2 議事概要

(1) 議事説明

【事務局】

資料に沿って議事内容を説明

(2) 質疑応答

<震源モデル>

【委員】

月寒の伏在活断層は、結論として位置と傾きがおおむね一致しているということで、現行想定を維持という判断だが、日本海PJの資料を見ると、太美背斜からさらに左側に茨戸背斜まで変位が出ているような図になっていることから、震源モデルについて、微小地震の観測結果等を踏まえて、上下限面の深さの検討を行うことが望ましい。

【事務局】

観測結果等を踏まえて、改めて上下限面の深さを提示します。

<地盤構造モデル>

【委員】

胆振東部地震の震源モデルの公開と浅部地盤構造モデルの改定が整った際には、これらを用いた再計算を行い、地盤モデルの再現性を確認することが望ましい。スケジュールに間に合うようであれば、検討してほしい。

【事務局】

震源モデルの公表時期が示されないことには明確にはできないが、全体スケジュールや地盤モデルの改定時期などを踏まえ、胆振東部地震における実際の震度と各モデルによる想定震度の比較ができるように全体調整をしていきたい。

<液状化の評価>

【委員】

道路橋示方書の計算式の改定について、従来の式と改訂した式との結果について、可能な範囲で比較確認してほしい。

【事務局】

可能な範囲で対応したい。

【委員】

地下水位について、融雪期とそうではない時期で50センチメートルぐらい水位が違う時があるが、この時期によらず、ボーリングの初期水位が合っているということではよろしいか。

【事務局】

初期水位の測定されている時期は、必ずしも融雪期とは限らないが、初期水位よりも融雪期で上がることも中には含まれており、また、10年前の結果だが、観測を比較できるデータを見ますと、おおむね初期水位が最高水位と一致しているという結果であったため、当時は初期水位で設定したという経緯がある。

10年間の増加傾向が微妙にあるという結果なので、その辺も含めて、設定の仕方、考え方を整理したい。

【委員】

地下水位が若干微増している傾向が見えているので、最近の観測データが得られているのであれば、改訂を検討することが望ましい。

【事務局】

水位についても確認し、できる限り反映していきたい。